

## 投資の基礎講座 「為替相場の変動要因」

CFP®認定者  
日本FP協会群馬支部副支部長 大谷 明

ほぼ3ヶ月間にわたり1ドル = 116 ~ 119円で推移していたドル・円相場ですが、このところ急激にドル安・円高になり、5日のNY為替市場では1ドル = 112円25銭と7ヵ月半ぶりの円高水準になりました。

為替相場は様々な要因で変動します。主な要因としては、国際収支、金利水準、景気動向があげられます。最近のドル安・円高は、「米国の利上げ打ち止め観測」、「原油高」の影響が強いといわれています。FRB(米連邦準備制度理事会)はFFレートの誘導目標を2004年6月から15回引き上げて4.75%にしました。これは景気の拡大を冷やすことなくインフレを抑えることを目的に行ってきましたが、この間日本の金利はゼロ金利政策に加え、量的緩和政策により日米金利差が大きく広がっていました。一般的にお金は金利の高い(有利なところに)集まります。日米金利差が拡大していく中で、円からドルに資金が流れていたといえるでしょう。しかし、ここに来て日本の金利は徐々に上昇をはじめ、米国では利上げが打ち止めになるのではないかと観測が強まり、日米金利差が縮小しそうだと思える投資家が増えたため、ドルを売って円に資金が流れてきたといわれています。また、原油高で米国の経常赤字が拡大していることもドルが売られやすくなっていると言えそうです。

### 先週の金融市場データ

週間高低表(終値ベース)	週初	高値	安値	週末終値
日経平均株価	16,925.71円	17,153.77円	16,925.71円	17,153.77円
TOPIX	1,717.17	1,737.18	1,717.17	1,737.18
東証1部単純平均	534.56円	539.33円	534.56円	539.33円
東証1部売買高	1,319,283千株	1,443,080千株	1,319,283千株	1,443,080千株
ニューヨークダウ平均	11,343.29ドル	11,577.74ドル	11,343.29ドル	11,577.74ドル
NASDAQ	2,304.79	2,342.57	2,303.97	2,342.57
10年国債利回り	1.880%	1.920%	1.880%	1.920%
債券先物中心限月	133.14円	133.14円	132.74円	132.74円
無担保コールO/N	0.005%	0.005%	0.005%	0.005%
円TIBOR 1ヶ月	0.83640%	0.83640%	0.8364%	0.8364%
円TIBOR 3ヶ月	0.14636%	0.14727%	0.14636%	0.14727%
ドル/円相場	113.18円	113.80円	113.18円	113.80円
ユーロ/円相場	142.83円	143.32円	142.83円	143.32円
1ユーロ = ドル	1.2617ドル	1.2617ドル	1.2592ドル	1.2592ドル
米国FFレート	4.8125%	4.8750%	4.8125%	4.8750%
米国10年国債利回り	5.14%	5.15%	5.10%	5.10%

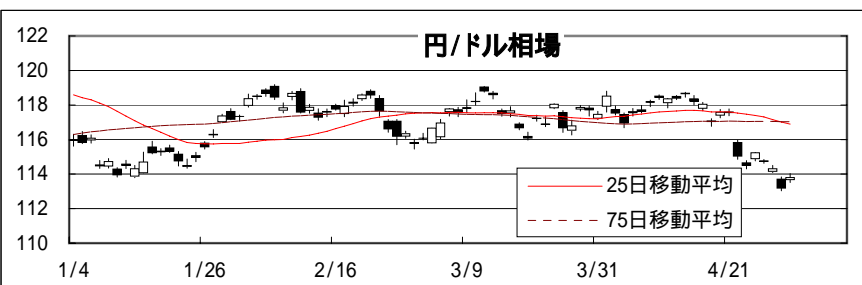
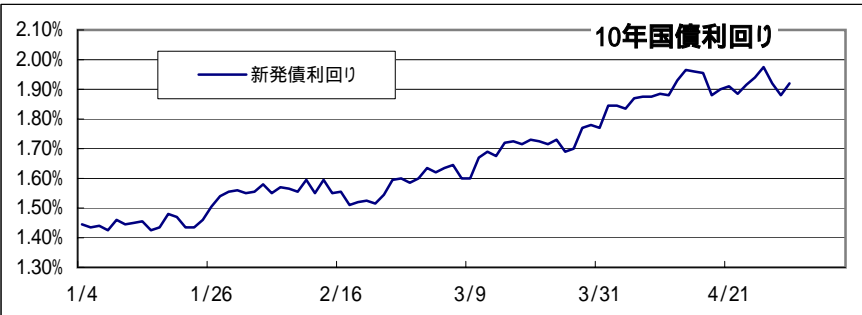
### スーパー定期(ニュー定期)金利表

平成18年5月8日現在

	1ヶ月	3ヶ月	6ヶ月	1年	2年
群馬銀行	0.02%	0.02%	0.02%	0.08%	0.13%
東和銀行	0.02%	0.02%	0.02%	0.08%	0.13%
高崎信用金庫	0.02%	0.02%	0.02%	0.08%	0.13%
郵便局	0.02%	0.02%	0.02%	0.08%	0.13%

### FOMC(連邦公開市場委員会)

5月10日に米FOMC(連邦公開市場委員会)が開催され、FFレートを0.25%引き上げ5.00%にするという見方が有力です。FOMC(Federal Open Market Committee)は、米国のマネーサプライと金利水準に関する決定を行う機関です。FRB(連邦準備制度理事会)の7人の理事と1年交代の5人の地区連銀総裁から構成されています。年8回(2006年の場合1月31日、3月27 - 28日、5月10日、6月28 - 29日、8月8日、9月20日、10月24日、12月12日)、ワシントンで会合を開き、経済状況について詳細に検討し、金利とマネーサプライについての決定を下します。決定は非公開で行われますが、後日議事録が公表されます。委員会終了後、声明文(Statement)が発表されます。決定そのものよりも、前回の声明文と文言の異なるところに政策の意図を見出そうと市場関係者は注目しています。



### 今週の株式相場見通し

先週末のNYダウが6年4ヶ月ぶりの高値となったことやGW明けで買いが入りやすいことから前半は比較的確りとした相場展開となりそうです。しかし、円高が進んでいることや金利が上昇してきていることから上値は限られるものと思います。3月決算発表が始まってきたことから外国人投資家や機関投資家は業績動向を慎重に見極めたいとするものと思いますので、買いは手控えられやすくなりそうです。また、円高、原油高、金利上昇懸念など株価の先行きに対する警戒要素が多いことから上値の重さを嫌気して下落に転じると意外と下落幅は大きくなりそうです。

### 今週の債券・為替相場見通し

米国の利上げ打ち止め感が出てきたこと、為替が円高に振れていることから金利先高懸念がやや薄れ、債券相場は落ち着いた動きとなりそうです。10年国債利回りで1.90%を挟んだ狭いレンジでの推移が予想されます。為替相場は、先週NY市場で7ヵ月半ぶりに1ドル = 112円台前半まで円高・ドル安が進みましたが、米景気の先行きに警戒感が強まっていることからドルが反転する可能性は低いものと思います。10日の米FOMCで0.25%の利上げが行われると思いますが、声明文で利上げ打ち止めを示唆することがあれば、ドル安が更に進む可能性があります。

CFP®, CERTIFIED FINANCIAL PLANNER®およびサーティファイドファイナンシャルプランナー®は、米国外においてはFinancial Planning Standards Board Ltd. (FPSB)の登録商標で、FPSBとのライセンス契約の下に、日本国内においてはNPO法人日本FP協会が商標の使用を認めています。

本資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、取引の勧誘を目的としたものではありません。ここに記載されているデータ、は信頼できる各種情報源から入手したものでありますが、その正確性や完全性を保証するものではありません。また、本資料に記載された見解や予測等は資料作成時点における個人的意見であり、ライフプラン21が保証するものではありません。投資に関する最終決定はお客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。